

第2回コーポレートアートエイド京都
(CORPORATE ART AID KYOTO)
入選作品



think of far

TOMOMI

東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻美術教育修了

愛情の距離感が様々である。何か1つ失ったとしても、全部が壊れてしまわず、別の何かが補完してまた生活が続いていく。

キャンバス、油彩

1120×1455mm



Blue Sheep

Blue Sheep/炎のキツネ

彩蘭弥 (Alaya)

多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒

Blue Sheep

チベットを旅し、作家が実際に会った青い羊(山羊)Blue Sheepと、目の眩むような朝日。それはまるで西方浄土の景色のようで、その感動を点描で表現した

炎のキツネ

アイスランドでオーロラを取材し、描いた作品。サーミ族の伝承にある炎の狐が夜空で遊び、光に照らされた柱状節理がぼんやりと輝く。

和紙に和絵具(2点同メディア)

1000×1000mm(2点同サイズ)



炎のキツネ

日月秋草流景図

伊藤寛人

東京芸術大学美術研究科芸術専攻美術教育分野修了



トルコの伝統芸術であるエブルで染めた極薄の和紙と金銀箔、そして岩絵具による描写を何層にも重ねることで、平面性の中に空間と時間の蓄積を表現することを試みた作品。金属箔・泥と和紙の重なりを効果的に用いることで、展示場の光の変化によって作品自体の見え方にも変化が起こり、違った味わいができるように制作した。

エブルを取り入れた紙本彩色

1620×3909mm (1620×1303mm×3枚組)



チキンファイヤーキング

加藤健一

東京藝術大学大学院美術研究科油画修士修了

鉛筆の線の速度のまま油絵を描くように薄くした絵具で描いています。みんなが王様あって、みんなにせものである。そんな絵です。

キャンバスに油彩

1300×1300mm



SPECTRUM DRAGON

菊地虹

東京藝術大学大学院
美術研究科芸術学専攻美術教育研究分野修士課程修了

分散光をテーマに、様々な表現技法を横断しながら、バラツキを絵画の平面上に等価値に扱う絵画を目指して制作した。伝統的なモチーフを現代的な視点で捉え直し、表現している。

キャンバス、アクリル絵具

1120×1455mm

歩いて歩いて

周志雄

京都精華大学芸術研究科博士前期課程日本画専攻

壁にある亀裂の不完全の美しさを生命力がある動物で表現したく、この作品はゾウを主体に制作しました。

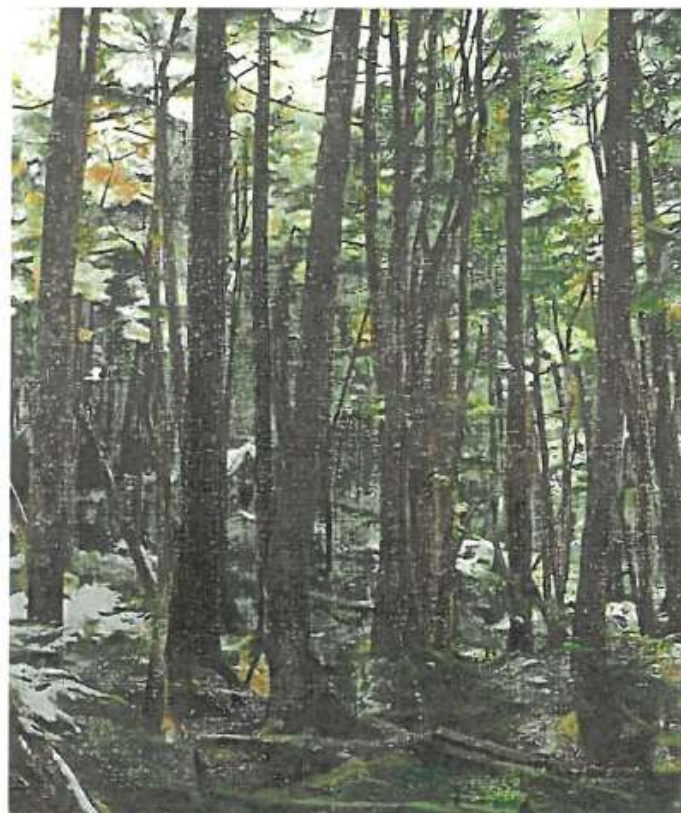
岩絵の具、水干絵の具、金箔

2273×1455mm





ランドスケール01



ランドスケール02

ランドスケール01 ランドスケール02

白石雄樹

東京藝術大学美術研究科油画技法材料第2研究室卒

手前のものが奥のものとは異なる時、視界から奥のものが消える、もしくはイメージが欠損します。遠くに見えるものを含めての風景、下層にある絵の具や筆致を含めての絵画。その場所、空間にアプローチした作品です。

キャンバスに油彩(2点同メディア)

1940×1620mm(2点同サイズ)



Rose Garden of Light

高橋 果歩

京都市立芸術大学大学院美術科油画専攻修了

植物の透き通った光の様子、鮮やかな色彩に満ちたひとつの象徴的な空間を作り出すためにモノが光や色彩に変換するように意識しながら取り組んだ作品です。

キャンバスに油彩

1940 × 3860mm



Menyanthes trifoliata I

高橋 果歩

京都市立芸術大学大学院美術科油画専攻修了

キャンバスに油彩

1120×1620mm



泡影

高橋由莉

京都市立芸術大学大学院美術研究科美術学部日本画専攻修了

光とモノと影が作り出す瞬間的な魅力を新たな
絵画として浮かび上がらせた。

紙本着彩

1818×2273mm

水景紅鶴図(すいけいこうかくず)



竹内昌二

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修士課程
絵画専攻日本画コース修了

フラミンゴの群れを墨で描きました。銀箔を硫化させ、水面を表現しています。

和紙に岩絵具、墨、銀箔

1600×2600mm



夕焼け

津田 翔一

東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻修了

夕焼けを描いた。水平線に沈む太陽である。いくつも存在している水平線に、直線ではない揺らぎの中で存在している世界の向こう側に沈んでいく太陽は世界と生命（力）をダイレクトに表現できるモチーフである。

キャンバスに油彩

1303×1620mm

Qualche Notte #7 –旅の夜–

沼田 愛実

東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了

「こんばんは」「おやすみなさい」「良い夢を」と言葉を交わす人々。次第に街の明かりは消え、暗くなり夜空の星がよく見え始めた頃、一つの星座が現れる。

パネル・キャンバス・油彩

1303×1620mm





まねっこ

ネイネイ

多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻修了

「グローバル化」に焦点を当て、日本発「カワイイ」現象を歴史的・考現学的に研究し、「カワイイ」の解体と再構築の可能性を提示することが制作のコンセプトである。自作のタイトルである<東京少女>を通して言葉や国の枠を超えて、新たな「カワイイ・カルチャー」の発信を挑戦していく。

アクリル絵の具、キャンバス、パネル、銀箔

1620×1620mm



山車

宮腰 衛

東京藝術大学大学院

美術研究科絵画専攻油画技法・材料研究分野修了

作品『山車』は「ありふれた日常」という組作品の中の1枚である。人々のあるがままの姿や今あるものだけに心を向けて生きていく姿に目を向け、日常とはどんな存在なのかを自問自答しながら描き上げた作品である。

パネルに油彩

1455×1120mm



野焼き

山中 翔

東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻修了

北九州市平尾台で毎年2月に実施される野焼きを取材しました。

紙本着彩

1818×2273mm



花と苑と死

和田 華苑

京都市立芸術大学大学院美術研究科日本画専攻

時間と共に積み重なり、剥落し、
私は形創られていく。

木材パネルに紙本著彩
(岩絵具、水干絵具、有機石灰)

2000×1000mm



00

和田 華苑

京都市立芸術大学大学院美術研究科日本画専攻

1つの星が始まりと結ばれた時、
そこには限りない無が広がる。

木材パネルに紙本著彩
(岩絵具、水干絵具、有機石灰、錆)

2303×1848mm